父の誕生日プレゼント

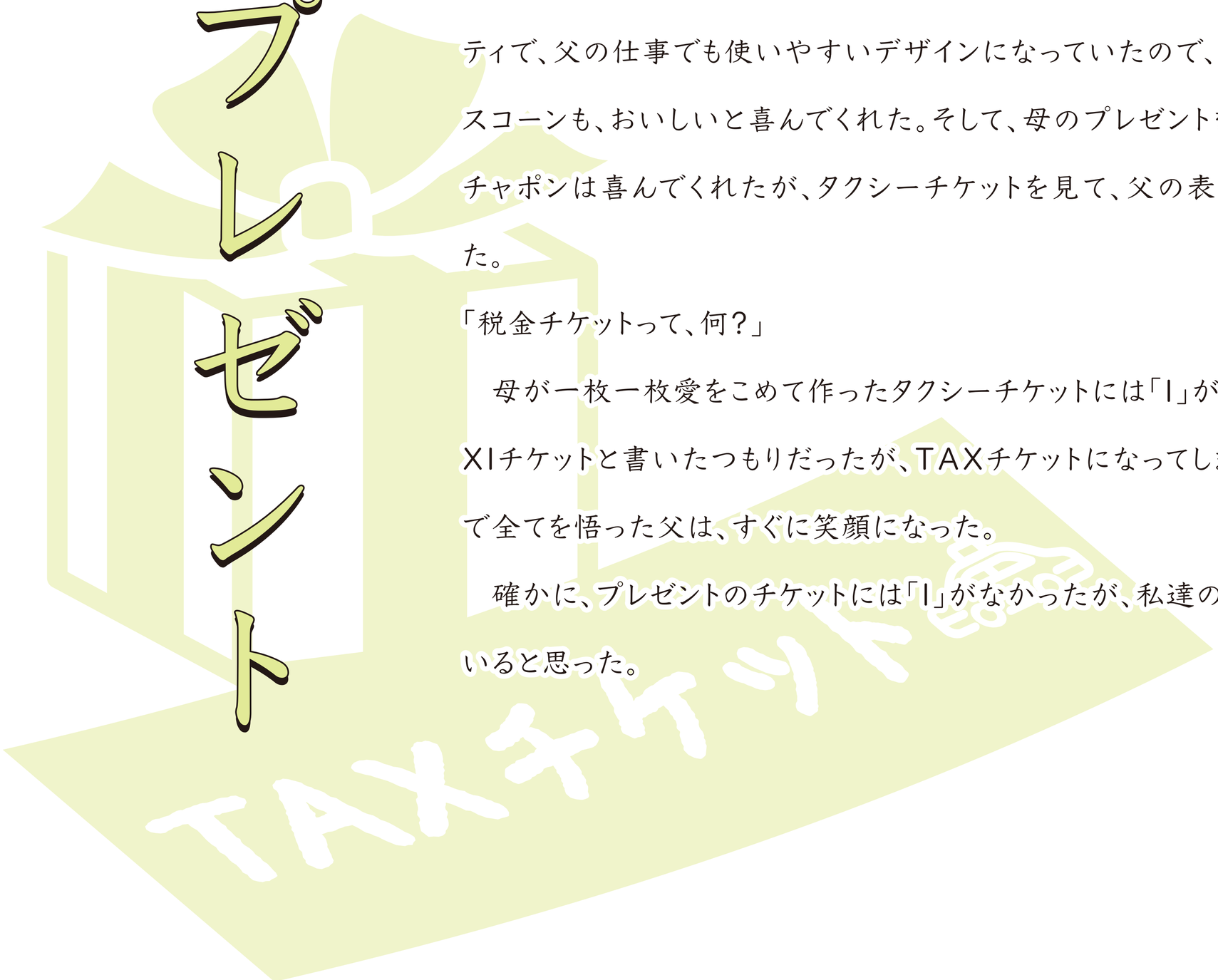
池内 沙藍［愛媛県］

二年程前の父の誕生日。私の母は、一か月くらい前から、父に秘密で入念に準備を始めた。姉と私にも協力をあおぎ、いくつかのプレゼントを用意した。姉は、消しごむはんこを作った。私は、簡単なレシピを調べて、スコーンを作った。母は、使い捨ての眼鏡ふきと、父の仕事で使えそうなガチャポン、そして、タクシーチケットを用意した。このタクシーチケットとは、母の手作りのチケットで、飲み会などで帰りが遅くなったとき、このチケットを使うと、母に文句を言われず、気持ちよく迎えに来てもらえるというチケットのことだ。

そして、ついに迎えた父の誕生日。私たちは、父の帰りを楽しみに待っていた。帰ってきた父を、三人の「ハッピーバースデー！」という歓声でむかえ、準備していたプレゼントを渡した。

まず、姉の消しごむはんこは、材料費こそ百円だが、百円とは思えないほどのクオリティで、父の仕事でも使いやすいデザインになっていたので、父はとても喜んだ。私のスコーンも、おいしいと喜んでくれた。そして、母のプレゼントを開けて、眼鏡ふきやガチャポンは喜んでくれたが、タクシーチケットを見て、父の表情が変わって、こう言った。

「税金チケットって、何？」

母が一枚一枚愛をこめて作ったタクシーチケットには「I」がなかったのだ。母はTAXIチケットと書いたつもりだったが、TAXチケットになってしまっていた。しかし、数秒で全てを悟った父は、すぐに笑顔になった。

確かに、プレゼントのチケットには「I」がなかったが、私達の家には「愛」があふれていると思った。